

令和元年度 稲沢市地域自立支援協議会 第2回就労支援部会 議事要旨

[日 時] 令和元年7月23日(火) 午後2時～午後3時40分

[場 所] 稲沢市役所 本庁舎 2階 政策審議室

[欠席者] 就労支援部会委員 1名

[議 事]

1 協議事項

(1) 企業のための見学会事業について

- 見学会の日程及び内容案について説明(事務局)
- 学校の日程(1時間半)について、短いか。
- 昨年度の企業での見学会のように、懇談会等を企画するなら時間が足りない。
- 生徒が出て話をするのは難しい
- 昨年一宮市で行った日程は、見学後就労支援機関との交流会があった。見学は40分間とっているが十分か。4班のうちの2班程度しか見られない。
- 会議室で説明しながら経験談を話せる人は話してもらおうという形で良い。
- 4班の作業は、農耕は外で、縫製、窯業、紙工の4つある。1班で10分程度はかかる。資料については学校から、学校紹介と実習で使う物を用意している。
- ハローワークでも資料を用意させてもらっている。
- 企業については打合せにいったから決めるが、当事者の意見が聞けたら聴く。
- 昨年度の実績は、特別支援学校が14社19名、企業が6社7名。
- 雇用未達成の企業に案内したい。ハローワークのHPにも載せたい。
- ハローワーク用のチラシは、昨年度並とすると、200部くらい必要。
- これまでの参加企業を踏まえて声をかけて行きたい。
- 周知方法として、企業が集まる所へ行って説明した方が良いか。
- チラシだけ見るよりは良い。
- 中小企業同友会や商工会の集まりを兼ねてできないか。
- 2,100社へチラシを入れるだけより、説明する方が違う。
- チラシが出来次第案内しながら9月末に2,100社送付することはできる。
- 企業の打合せができればチラシは完成する。
- 企業からの意向として制度的な活用について説明があると前向きになれると思う。
- 昨年ハローワークで用意した資料の中に助成金の説明も入れている。
- 外国人の雇用について説明をやっていても助成金や補てんについては積極的である。
- ハローワークでもいろいろと企業に対してセミナーをしている。
- 見学会に参加すればそういう情報が得られるという案内をしていけばよい。

(2) 農福連携の現状について

- 市内の福祉事業所の農福連携の現状について報告（事務局）
- 福祉事業所として、現在 J A、個人農家と連携している。最初は 4 年程前の尾張西部圏域での農福連携会議があり、それ以降連携している。課題点は場所の問題で、作業場まで距離があると車代が負担になる。J A は事業所近くにトマトを植えて頂き、事業所で収穫している。個人農家も、J A から無償で借りている畑の植え付け管理をお願いして収穫と出荷準備を事業所で受けている。環境整備も課題で、車で移動しなければならない場所は、トイレが不便。その都度事業所へ戻ることはできない。農機具や手洗いの設備も必要。助成金は福祉事業所でなく、農家から申請して活用していく必要がある。農家も人手不足の現状で、事業所もそれを補うことができない。J A の畑では事業所が取り残した部分を後から J A 職員がやり直している。事業所でも作物を育てていて、他にも空き地があるという話は多く聞くが、それを全部もらう余力はない。連携をとる方が良い。今後も J A、個人農家と連携し忙しい時期は手伝っていく。通年でできる事が理想だが、繁忙期だけでもやっていく。
- 環境整備すれば問題解決で進んで行くのか。
- あくまで福祉事業所の意見で、農家のニーズはもっとあると思う。農家の求めることを全てやれていない。
- 協議する機会はあるか。
- 打合せ、情報交換の機会はある。今必要なことは助成金などの助言を農家に教えてもらえるところがあると良いと思う。土地の話は農務課で聞いている。
- コーディネーターの制度はなかったか。
- 以前は緊急雇用対策で農業を教えられるアグリジョブコーチを雇える制度があったが今はなく、制度として残らなかった。今は農福連携がブームだが、稲沢市は農業しかない地域とはいえ、他の産業から軽作業の需要もある。それに加えてやれるか。次の展開にもっていきづらく双方に経済的なメリットがない。
- 農水省の助成金も難しく、生産物が特別に高く売れるわけでもない。
- J A 愛知西がマッチング機能をやりたいた言っていたが、土地は使って欲しいが、農家のメリットがない、教えないといけないということで集まる農家が無かった。
- 取り扱う品種によっては簡単に出来る物はあると思う。トマトは色味や多きさがあるが、オクラはサイズだけ。
- 物を見せてこれと同じものを収穫してというのが、実際にはできない場合もある。簡単なようで簡単でない。慣れる頃に仕事が終わる。来年まで覚えていられない。福祉事業所が 7 人で 4 時間やって 100 袋程できるところ農家の人なら 1 人で半分の時間でできてしまう。1 年間水耕ハウスで同じ作業をするなら障害者も活躍できる。
- そこまでの水耕規模の企業は市内にはなかったと思う。同じ仕事を年間通じてやれると良いと思う。
- 現状を知ることも連携の一つだと思う。

(3) その他

- (株)エスプールのプラスについての情報。従来の障害者雇用の形ではない雇用が出てきている。障害者雇用というのは自社で雇い入れて自社で働く、もしくは自社で雇用が難しい場合は特例子会社を作り自社の雇用とすることが通常であった。ところが今回この会社は新たなビジネスモデルを提示している。障害者雇用率を達成したい企業の相談を受けて、用意したハウス農園で障害者が働き、雇用率は雇用を達成したい企業にカウントする。
- 障害者雇用をする企業は、自社で働いてもらう形ではなく、(株)エスプールの用意した農園で、(株)エスプールの採用した高齢者スタッフが障害者の仕事の指導をする。雇用の請負と言える。障害者雇用の受け入れ体制づくり（社内理解、業務切り出し、業務管理、社員教育等）を全部発注する。障害者雇用率を買うともいえる。共生社会の実現や多様性の社会の実現に逆行しているのではないか。福祉関係者は違和感を覚える。できた野菜は企業の従業員に配布され、市場で評価されず企業の中で消費される。できなければできないで良いという捉え方。頑張って生産性を上げるということにならない。でも月収は10万円程度が保障されている。背景には、障害者雇用率が上がるが、雇用するだけの仕事量や内容を用意できない。社内で理解されないなどハードルが高い。やむにやまれず相談したところもあるが、大企業で特例子会社がある企業でも発注をしている。企業の中での障害者雇用の努力が限界までされているのかと疑問に感じる。このビジネスモデルが愛知に進出している。春日井市と協定を結んでいて、市からの文書が手帳をもっている方へ郵送され、就職先がきまってきた家庭にも送付され、会社へ行きたいと言う方も出来て現場は混乱した。75人が就職したが、うち30人は京都に本社がある企業の雇用となった。
- 雇用率は京都になるのではないか。春日井市の事業所には何もならない。
- 豊明を見学した際は、事務所はトレーラーハウスで固定資産税かからない。事業撤収した際にすぐに撤去できる。
- もともと職業紹介の会社だからマッチングさせている。
- 3人でハウス1つを運営し企業は70万程払う。1人雇用の企業はメリットがない。
- ハローワークにも来ている。
- 稲沢市にもアプローチがあったときいた。他市に働きかけたり、ニーズ調査をされている。この話が来る場合どう対応すべきか想定しないと、と思い問題提起をした。
- 合法的ではあるが、実際に働く人は砂場で遊んでいたりする。それが働くということかと疑問に思う。法律には則っていると思うが、根本的な事を見極められるようにしてほしい。事前に情報があれば対応を考えてほしい。就労支援部会として皆さんアンテナを張っておいてほしい。
- 会社のほうにアプローチはある。また商工会にも話があるかもしれない。

- B型くらいの子でも親が熱心で実習まで行ったことがある。他に生活介護くらい子だが、(株)エスプールプラスの農場で働き、会社から10万もらって障害者年金ももらっている子もいる。
- この先10年20年続くとは思えない。今景気が良いからやれているだけで長く続かない。企業がそれだけ利益を出しているからできるだけ。
- 同じ業種が名古屋にもあり、人材派遣でやっていて自社雇用ではないが自社で軽作業をさせて雇用率を上げようという会社が出来ている。広まってほしくないと思う。
- 稲沢市にも数年前から働きかけはあり、年に何回かは来庁や電話があり、今年2月に農務課や農業委員会、福祉課と会社で話し合う機会が1度あった。土地の紹介をしてほしい、との事だったが、特別に取り扱うことはできない、市が紹介することはしないと対応した。その後連絡はなく、福祉課から上に話を挙げることもしていない。違法な事をやっている訳ではないので、無下にノーと言えないが、本質からは外れているという思いはある。
- 協定を結ぶとなると市のお墨付きをもらったようになり、親御さんも安心だと思ってしまう。特別なことはしないで欲しいと言いたい。
- 今後も注視していく。